

## 国策落語に挑む 林家三平

山口 洋司

先の戦時中の演芸の話です。

軍は戦時体制強化に映画や演芸の娯楽を通じて国策に協力を強いました。漫才は挙って産めよ、増やせよ、貯えよ、欲しがりません勝つまでは、と政府のスローガンにそってネタをつくり協力せよ、と国民に呼び掛けます。落語は禁演落語と国策落語で対応します。禁演落語は廓ばなしなど艶っぽい噺などは演じない、と自粛して谷中にお墓を作って噺を葬りました。「三枚起請」「高尾」など、なんと53作あったそうです。

国策落語は軍に強要されて作った新作落語です。柳家金語楼や三遊亭金馬らが軍の指導のもと多く作って演じ、雑誌の「キング」や「講談倶楽部」に同時掲載し、「肉弾三勇士」などの美談などはそこから生まれたのです。軍は講談の貞山、落語の柳橋、文楽に「愛国演芸同盟」をつくらせ戦意高揚噺を推進していきました。

禁演落語は戦後解禁され墓から甦りましたが国策落語は当然生き帰ることはありません。

しかし、今その死んでいる筈の国策落語を東京落語の2代目林家三平さんが甦がらせているのです。

このあいだNHKでちらっ見たのですが三平さんが演じたのは国策落語「出征祝」です。面白くない落語です、と断りながら三平さんは噺を進めます。息子が出征してお国に貢献できる、と喜んだ父が宴を開き祝うという祖父の林家正蔵が作った10分ほどの国策落語です。サゲは父が一升瓶2本買ってこい!、つまり日本勝て!となるのです。三平さんは国策落語を敢えてそのまま演じ、そのあとで立ち上がってこの国策落語の解釈するのですがその話が三平師匠の真意なのです。

三平さんは噺が戦争を肯定することに関わっていたことの恐さを語ります。本当に恐ろしいのは兵器でなく頑張りましょう、と人を煽り人の心を変えていくことだと言います。戦争に向かって人の心を変えてしまう手助けをする。国策落語の恐さを淡々と語るのです。つまり国策落語は反面教師となるのです。



東京大空襲の慰霊碑  
時忘れじの塔

三平さんが戦争を語るのは母海老名香葉子さんの影響です。戦後落語の爆笑王といわれた先代三平の妻である香葉子さんは戦争で孤児になった過去を持ち戦争は絶対にあってはならずと、かたり部を長年やって来、昨年亡くなりましたがそれを三平さんが落語活動で引き継いでいるのです。

事務所に取材したら終戦記念日など節目の日と呼ばれたりするがこれからもっと広げていきたい、今世界に戦争がある今だからこそということでした。

2代目林家三平師匠に拍手。かたり部としての活動にも絶大なる応援をしたいと思います。